



な

石仏群（新潟県指定文化財）

関山の集落内には体の上半部のみを彫刻したような珍しい石仏がたくさん残っている。現在、関山神社の妙高堂の脇に26体、集落内の各所に9体が安置されているが、これらは妙高山への道しるべとして、かつては登山道沿いに置かれていたと伝えられている。

仲良しの
二十六個の
石仏

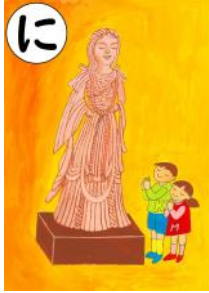


は

大鹿たばこ

大鹿たばこは、万治元年（1658）に大鹿村の五郎左衛門が長崎からたばこの種子を取り寄せ、自家用に育てたのが始まりといわれている。元禄12年（1699）には、高田藩主 稲葉丹後守が幕府に献上したとされ、これにより大鹿たばこの名が全国に広まった。

幕府に
献上の
大鹿たばこ



に

銅造菩薩立像（国指定重要文化財）

関山権現の主尊であった菩薩立像は、飛鳥時代に朝鮮半島の百済で製作された渡来仏であり、国内最古級の仏像として高く評価されている。明治元年（1868）に秘仏となったが、昭和36年（1961）に開封されて以降は御神体として本殿に安置されている。（高さ20.3cm）

にこやかな
観音菩薩は
日本最古



ひ

仮山伏の棒遣い（新潟県指定文化財）

火祭り（正式には「関山神社大祭」という。）で奉納される仮山伏の棒遣いと松引き（柱松行事）は、江戸時代から続く妙高山信仰の伝統を残す神事である。当時から棒遣いは、村の百姓6人が2人1組となり太刀、長刀、六尺棒を用いて演武の型を披露するものであった。

火祭り
仮山伏の
棒つかい



ぬ

国立妙高青少年自然の家

平成3年（1991）12月1日にオープンした国立妙高青少年自然の家は、全国最後の14番目に建設された。各施設は星座名を用いている。屋外のキャンプ場や源流体験等の青少年の育成にふさわしい環境が整っており、地元児童は妙高アドベンチャー等の体験を楽しんでいる。

ぬれても楽しい
青少年自然の家
源流探検



ふ

仏足石（新潟県指定文化財）

安山岩の巨石（高さ200cm、幅120cm）に釈迦の足形等を彫刻したもの。中央に仏足、左側に舍利塔（釈迦の遺骨を納める塔）、右側に仏手華判（釈迦の実印）が彫刻されている。奈良の薬師寺に次いで古く、仏像崇拜以前から信仰されてきた三者を同一面に彫刻したものは日本で唯一といわれている。

仏足石
お釈迦様の
足のうら



ね

関山神社社殿・宮殿（国登録有形文化財）

雪のなか鎮守の杜は地域の人たちの初詣でにぎわう。現在の檜造りの社殿は、宝蔵院15世院主「薩海」の時代に10年の歳月と1,731両の費用をかけて文政元年（1818）に完成したものである。棟札には棟梁をはじめ多くの高田の職人の名前が記され、彫刻による装飾が多く、派手な意匠となっている。

願いこめ
関山神社へ
初詣



へ

北弁天と南弁天

妙高山が5000年前に噴火した際の火砕流の巨岩が神社の北と南にある。この2つの巨岩は神様が宿る磐座（いわくら）とされ、江戸時代に水の信仰と習合して弁財天信仰が生まれた。弁財天は音楽、芸能の神様としても信仰されている。

弁財天
大いわくらに
奉られて



の

亀石（妙高市指定文化財）

関山神社の御手洗池の中にある亀石は、全長120cm、甲幅50cm。亀石は豊作吉祥の神として尊ばれているが、これは朝鮮半島からの渡来人たちによって伝えられた大陸の思想であるといわれている。

のびやかに
亀石さんは
池の中



ほ

旧関山宝蔵院庭園（国指定名勝）

落差5mの高い滝石組を主景とする池泉庭園。池は、心という字をかたどっているので心字池ともいう。極楽西方浄土とされた妙高山を独占した庭園の景観は、妙高山一帯を所領とした宝蔵院の権威の象徴といえる。庭園自体が「滝」と「岩場」からなる小さな妙高山となっている。

宝蔵院
滝の上には
妙高山